

ながせこども園 事故及びヒヤリハット概要

※事故は医療機関を受診し、日本スポーツ振興センター災害共済給付制度に申請したもの

令和3年

<事故>	内容	改善概要
1 11月2日	園児が園庭の遊具で遊んでいる際に階段を踏み外し転倒。足の甲に6cmの裂傷。	いつも遊んでいる遊具での事故だったが、子どもの動きをしっかりと見ながら保育を行う。遊具点検の際は、危険個所が無いかわかり部分まで点検する。
2 11月10日	園庭のアロハ山を走り下りた際に勢いがつきすぎてバランスを崩し顔から転倒する。その時に前方にいた他児の膝に上の歯がぶつかる。	本児の好きな遊びであったため、高揚してしまうことが予測された。事前に声掛けを行う等個々に対し丁寧な対応を心がける。

<ヒヤリハット>

<ヒヤリハット>	内容	改善概要
1 1月15日	毎月確認のために保護者に渡すアレルギーチェック用紙の入った封筒を、別のアレルギーがある園児のカバンに入れてしまい保護者が気付く。	複数での確認を徹底する。
2 2月15日	ホールで午睡後に教室に戻ろうとして前をよく見ずに、柱にぶつかったがケガは無し。	本児の特性をしっかりと認識し、声をかけながら見守る。

令和4年

<事故>	内容	改善概要
1 3月11日	ホールで走り遊んでいた園児が他児とぶつかり、上前歯2本のぐらつきと歯茎からの出血。	園児に対し、子供自身が気を付けて遊べるよう約束（走るとケガをする事等）。職員も子どもの行動を予測して危険のないように環境を整える。
2 6月23日	ブランコの周囲柵で前回りをして鼻をぶつける。	園児に対し、柵に乗らないよう指導する。職員会議でも園児の指導について対応を共有する。

3	10月17日	保育室遊具で遊んでいる際バランスを崩し転倒。手に握っていた遊具がおでこに当たり出血。	園児に対し、玩具の遊び方について指導。職員間でより安全に遊べるように玩具の点検、見守りの体制を強化する。
---	--------	--------------------------------------------	------------------------------------------------------

令和5年

<事故>

	<事故>	内容	改善概要
1	4月19日	日中の保育及び夕焼け保育でも走り回って遊んでいた。降園時、保護者がいつもと歩き方が違うことに気づかれたがそのまま帰宅。翌朝、足首に腫れがあり受診。捻挫。	登降園時に子供の体調等を把握し、異変に気付いたときは職員間で共有し保護者へ伝えることを再度確認する。危険個所はないか等日頃から職員間で話し合う。
2	7月3日	保育室で遊ぶよう声をかけていたが、ホールで遊んでおり高さ75cmの棚からジャンプし着地時に舌を噛む。	職員の目が届かないところでは遊ばせない。(ホールに入れないよう施錠等)
3	7月4日	水筒のお茶を飲みながら廊下を歩いているときに前方より歩いてきた園児の額とぶつかり右上前歯茎から出血。	園児にそれぞれの約束事の再確認を行う。職員間でも危険な場面ではその場でしっかりと注意し危険を知らせる。
4	9月8日	園児がオルガンの横に来てつかまっていると、他児がオルガンの蓋を閉めてしまい指を挟む。	一つ一つの行動や遊びに危険が無いよう保育者の危機管理を徹底する。
5	12月25日	「だるまさんが転んだ」の絵本を読んでいると、園児が絵本の内容を模倣し転がったときに腕を押さえて「痛い」と泣き出す。手の動きや痛む個所を確認。保護者へ連絡し状況説明する。肘内障の疑いがあったため受診を勧める。	はじめての肘内障だったが、ちょっとした衝撃で抜けてしまうことがわかった。今後は動きを予測し危険がないようにする。

令和6年

<事故>

	内容	改善概要
1 3月27日	夕焼け保育時に園庭で遊んでいた際に、右腕に何らかの負担がかかり右肘が外れる。	保護者より受診の様子や右腕の状態を確認。園生活の中で本児がどの状況や動きで外れる可能性があるのか予測し見守る。鉄棒等腕に負担のかかりやすい遊びは控えてもらう。
2 9月5日	遊戯室で技巧台と戸板を組み合わせた遊具を設置し運動遊びを行っていた。子ども数名が一気に戸板に駆け寄りよじ登ろうとした際、重みに耐えきれず戸板が技巧台から外れた。一番上に乗っていた園児が落ち戸板に口まわりをぶつける。	職員は常に危険予測を行いながら、より密な声を掛け合い連携して保育にあたる。
3 11月12日	朝の自由遊びでホールや廊下で鬼ごっこをしていた。追いかけてきた園児が急に立ち止まり、後ろ向きで走ってきたため本児とぶつかり歯茎から出血。	朝の時間帯は職員の人数も少ないため、静かな遊びを提供する。決まりや約束を子どもたちと再確認する。
4 2月4日	給食を取りに来る際、混雑を避けるために子どもの名前を呼んでから順番に取りに来させていた。その際本児の名前を呼ぶのを怠ってしまった。その場にいた職員も本児が給食を食べていないことに気づかず、給食を食べずに降園した。降園後、食具の使用やご飯を食べていないことを不審に思った父母から夕方に電話があり発覚した。	<ul style="list-style-type: none">・グループを作り、グループごとに人数が揃ったら給食を取りに来るようにする。(一人一人名前を呼ばない)・グループが全員給食を取りに来たら保育者が各テーブルに給食が全員分あるか目視確認する。グループごとに「いただきます」「ごちそうさま」をする。・皿の数と子どもの人数の確認を徹底する。・各テーブルの見守りを徹底する。

<ヒヤリハット>

	内容	改善概要
1 4月26日	食後、歯ブラシを加えながら出歩き、トイレの入り口にいた。	本児が歯磨きをするときは、保育者もそばにつくようにする。

2	5月16日	園児の服に穴が開いていたり、やぶれていた。保育者が気付いたときは大きな穴だったため、朝からだと思えば本児に詳しく確認していなかった。→自分で噛んで開けたとの事。	子どもの体調だけでなく、衣服等の変化にも目を向け気になった時は、保護者に確認する。
3	6月18日	部屋に置いていたパイプ椅子に乗っていて倒れた。	パイプ椅子は使わない時は片づけるか、子どもが取り出せないところへ置く。乗ったら危ないことを知らせる。
4	6月19日	保育者の後を追いつ指がドアに挟まりそうになる。	まわりを確認し、ドアはゆっくりと開閉する。
5	7月11日	保育室の柱におでこをぶつける。	柱のところにクッションをつける。
6	7月22日	手作り玩具についていた養生テープが外れてしまい、口の中に入った。	その都度手作り玩具の安全性を点検する。子供に出す前に再確認する。
7	7月23日	募金の回覧のなかに歯科検診再受診の用紙が挟んであった。	預かった書類はすぐにファイルにはさむ。
8	7月25日	他児が迎えに来たので担当者へ渡そうと振り返ったところ、後追いつ保育者につかまり立ちしようとしていた本児に保育者がぶつかり転び、保育者がさらに一歩踏み出したことで床に顔をぶつける。	抱っこで引き渡す場面では、周囲に細心の注意を払う。その場にいる子供たちの行動や特性をしっかりと理解し保育にあたる。
9	8月6日	ロールマットの紐を首に巻き付けようとしていた。	ロールマットの紐はすべてマットの中に入れ込み、マットの紐の部分は後ろ側にしまう。紐を首に巻くことの危険性を話す。
10	9月11日	部屋の予備の椅子に座った時に、椅子がこつになっいてぐらつきこけた。	備品確認は日頃からしていたが、予備の椅子まではしていなかったなので、保育室にあるものは全て安全かどうか確認する。
11	9月12日	巧技台からジャンプし着地した際、右足首を捻る。	発達にあった技巧台の高さを再考する。補助をしながら低い段からジャンプする練習をする。

12	11月9日	本人が「走ってこけた」と歯のぐらつきを知らせる。本人も歯が気になりつつため、ぐらつきがひどくなる。	家庭と情報共有しながら園児の観察をしていく。
13	12月12日	ドッジボールをするために縄跳びでコートを作っていた。遊んでいるときに縄跳びがしっかりテープで固定されていなかったため、引っかかって転んだ。	ゲームをする前に危険が無いかしっかり確認してから行う。
14	1月8日	リズムのそり遊びをしていて、他児をひっぱっていた時に体がぶつかりそうになり、その反動でこけた。	本児のスピード感や空間認知の弱さがあるなかで難しい活動だった。子どもの発達を把握して活動内容を考えていく。
15	1月9日	玩具のタイヤを持ち転んでおでこが赤くなる。	歩行ができるようになり、本児の楽しい気持ちに寄り添いながらも、玩具をもって歩行しないよう気を付ける。

令和7年

<事故>

	内容	改善概要	
1	4月14日	登園した子供が1歳児クラスで過ごしていたが、送迎の際、部屋の扉が開閉したときに部屋にいた職員が気付かないうちに部屋から出てしまい、玄関にいた早番の職員も登園した他児の対応をしていたため気付かず、玄関へ出てしまった。交通安全指導をしていた保護者が気づき部屋まで連れてきていただいた。	保育室内の子どもの動きを常に把握し、扉の開閉時は特に注意する。職員どおしが声を掛け合う。部屋を出そうな園児を把握し所在確認を常に行う。
2	9月18日	夕焼け保育時、ホールで本児はボールで遊んでいたところ、他児が遊んでいたフープが目に入った。	十分なスペースが取れていなかったのにボールとフープを出してしまった。遊びの内容やルールの説明、職員配置や職員間の声掛けを徹底し降園するまで危機感をもって保育にあたる。
3	1月7日	夕焼け保育時、転倒する。その場では外傷は確認できなかった。母の迎え時に右肘を押さえながら痛みを訴えたため受診する。打撲。	転倒後は一時的な様子見ではなく、時間をおいて再確認する。

<ヒヤリハット>	内容	改善概要
1 4月8日	授乳は個々に応じた銘柄の粉ミルクがあることから、調乳した職員に再確認すると、スプーンひとさじの計量が間違っていることが授乳前に判明する。	ミルク缶には対象児の名前を記載し、名前ホルダーも作成し明確にする。
2 4月21日	自宅での夕食時あくびをした際に、黒いものが目からにじみまぶたにも砂があった。本児から「友達が顔に砂をかけた」と話す。	砂遊びについての約束を確認する。職員が目が行き届くように連携する。
3 4月25日	散歩時バディの友達の手を放し、車道に行こうとする。	本児のそばを離れずしっかり見守る。場合によっては保育者が手をつなぐ。
4 5月20日	歯ブラシを口にくわえたまま移動している。	園児に危険性が伝わりやすいよう、イラストなども使って繰り返し話していく。個別対応もしていく。
5 7月8日	年下の園児に右腕を噛まれる。	噛みつきが見られる場面等を把握し、保育者が近くで見守りをする。
6 10月21日	床のささくれ箇所足に指があたり、すばりが刺さる。	施設点検の際だけではなく、日頃から安全面に留意しながら、早めに修繕する。
7 11月4日	リズム運動の際、ステージで走っていて他児とぶつかり下唇をかむ。	よそ見をしながら走っていたため、前を向いて走ることを指導した。最近、家庭でもこけておでこをぶついたり、唇をかんだりと不注意からの怪我が続いているとの情報を得る。
8 11月13日	使った椅子を片付ける際、重ねすぎていたため正そうとしたところ、椅子が足の親指に落ちた。	椅子の片づけ方を再度確認し、保育者の見守りのもと安全に行えるように配慮する。
9 11月27日	おやつを食べていて、興味本位で鼻のなかに押し込む。鼻の中が傷つき出血する。	食べ物を鼻や耳などに入れてはいけない危険性を改めて話す。子供の行動に注意する。
10 1月9日	対象児の鼻水を拭き取ろうとした際、職員の爪先が肌にあたり、うっすらと傷跡が残る。	保育者の身だしなみ等のチェックを徹底する。
11 1月15日	夕焼け保育で、兄が合流してきたことが嬉しくて気持ちが高揚し飛び回る。回った拍子に左腕を床に打撲する。	保育者が近くで見守り、危険な動きになる前に声掛けを行う。